

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年10月31日

上場会社名 江崎グリコ株式会社  
 コード番号 2206 URL <http://www.glico.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江崎勝久  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 松本節範  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月7日 配当支払開始予定日 平成20年12月10日

上場取引所 東大

TEL 06-6477-8404

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	157,351	—	5,879	—	6,119	—	1,264	—
20年3月期第2四半期	150,472	4.7	4,723	△23.5	5,592	△22.4	2,832	△31.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	9.87	—
20年3月期第2四半期	21.94	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第2四半期	217,580	121,908	55.2	939.41
20年3月期	202,677	122,514	59.5	934.22

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 120,047百万円 20年3月期 120,557百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
21年3月期	—	5.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	10.00	15.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	290,000	4.1	5,300	24.2	5,700	11.1	200	△85.8	1.56

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、2ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、2ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 144,860,138株 20年3月期 144,860,138株

② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 17,070,527株 20年3月期 15,814,278株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 128,146,195株 20年3月期第2四半期 129,107,346株

## ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

上記業績予想に関連する事項につきましては、2ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご参照下さい。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の業績は、以下のとおりであります。

売上高は、157,351百万円（前年同期比+4.6%）で、菓子部門、冷菓部門、牛乳・乳製品部門、食品部門及び畜産加工品部門の全ての部門において増収となりました。売上原価率はほぼ横ばいでしたが、増収による増益及び広告費の減少等により、営業利益は5,879百万円（前年同期比+24.5%）、経常利益は6,119百万円（前年同期比+9.4%）となりました。特別損失に投資有価証券評価損を計上したため、四半期純利益は1,264百万円（前年同期比△55.3%）となりました。

各部門別の売上の状況は添付資料の8ページに記載しておりますので、ご参照ください。

なお、「前年同期比増減率」につきましては、参考として記載しております。

### 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期会計期間末の財政状態は、以下のとおりであります。

総資産は、217,580百万円（前連結会計年度末に対して14,903百万円の増加）となりました。主な要因は、有価証券の増加、受取手形及び売掛金の増加によるものであります。純資産は、121,908百万円（前連結会計年度末に対して606百万円の減少）となりました。主な要因は、自己株式の増加によるものであります。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績につきましては、今後更なる原材料価格の高騰に加え、金融市場の混乱等による企業業績に与える影響など、当社グループを取り巻く環境はますます激しくなるものと予想されます。従いまして、平成20年10月20日に公表のとおり、通期の業績予想を修正いたしました。

売上高は290,000百万円（前期比+4.1%）、営業利益は5,300百万円（前期比+24.2%）、経常利益は5,700百万円（前期比+11.1%）、当期純利益は200百万円（前期比△85.8%）を見込んでおります。

今後はこれを確保すべく、グループ企業全社を挙げて取り組む所存であります。

### 4. その他

#### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

#### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

##### ①一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合に、前事業年度決算において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

##### ②棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

#### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

##### ①会計基準等の改正に伴う変更

・当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

##### ② ①以外の変更

・所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号）及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号）を当第1四半期連結会計期間から早期適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。これに伴う損益への影響はありません。

##### ・販売促進引当金

当連結会計年度より四半期連結財務諸表の作成が義務付けられ、決算作業の迅速化の必要性が高まりました。当社は前連結会計年度においてはレポートの期末未払額を未払費用として計上しておりましたが、この決算迅速化の要請に対応するため、同未払額の算定についての体制を整備するとともに、算定方法の見直しを行った結果、当連結会計年度より販売促進引当金として計上しております。この算定方法の変更による損益への影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,938	9,380
受取手形及び売掛金	34,077	29,546
有価証券	15,466	7,349
商品及び製品	8,057	7,658
仕掛品	803	997
原材料及び貯蔵品	11,725	10,474
その他	5,887	6,346
貸倒引当金	△117	△161
流動資産合計	87,839	71,593
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,903	21,444
機械装置及び運搬具(純額)	25,563	24,691
土地	14,282	14,396
その他(純額)	6,758	6,064
有形固定資産合計	67,507	66,596
無形固定資産		
ソフトウェア	485	748
その他	793	302
無形固定資産合計	1,278	1,050
投資その他の資産		
投資有価証券	47,827	48,794
その他	14,220	15,674
貸倒引当金	△1,094	△1,032
投資その他の資産合計	60,953	63,436
固定資産合計	129,740	131,084
資産合計	217,580	202,677
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	35,738	29,595
短期借入金	10,959	8,322
未払費用	22,760	18,636
未払法人税等	2,156	595
役員賞与引当金	—	91
販売促進引当金	1,296	—
その他	5,701	5,442
流動負債合計	78,612	62,684

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>固定負債</b>		
長期借入金	6	6
退職給付引当金	12,678	13,287
役員退職慰労引当金	342	470
その他	4,032	3,714
<b>固定負債合計</b>	<b>17,060</b>	<b>17,478</b>
<b>負債合計</b>	<b>95,672</b>	<b>80,162</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	7,773	7,773
資本剰余金	7,422	7,421
利益剰余金	115,906	115,932
自己株式	△11,922	△10,493
<b>株主資本合計</b>	<b>119,179</b>	<b>120,633</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	1,835	684
繰延ヘッジ損益	△705	△803
為替換算調整勘定	△262	43
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>867</b>	<b>△76</b>
少数株主持分	1,860	1,957
<b>純資産合計</b>	<b>121,908</b>	<b>122,514</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>217,580</b>	<b>202,677</b>

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	157,351
売上原価	91,786
売上総利益	65,565
販売費及び一般管理費	
運送費及び保管費	14,130
販売促進費	16,493
広告宣伝費	7,694
退職給付引当金繰入額	394
販売促進引当金繰入額	1,296
その他	19,677
販売費及び一般管理費合計	59,686
営業利益	5,879
営業外収益	
受取利息	244
受取配当金	421
その他	551
営業外収益合計	1,217
営業外費用	
支払利息	177
金利スワップ評価損	254
その他	544
営業外費用合計	976
経常利益	6,119
特別利益	
固定資産売却益	257
投資有価証券売却益	99
その他	2
特別利益合計	358
特別損失	
投資有価証券評価損	2,186
その他	253
特別損失合計	2,440
税金等調整前四半期純利益	4,038
法人税、住民税及び事業税	2,367
法人税等調整額	153
少数株主利益	252
四半期純利益	1,264

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

（3）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（4）セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

当連結グループは食料品の製造、販売のみの事業であり、当該事業以外に事業の種類がないため該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める本邦の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は平成20年5月19日開催の取締役会において、信託方式による市場買付の方法によって自己株式の取得を決議いたしました。その結果、平成20年5月20日から平成20年6月26日までの取得期間において、1,195,000株、取得価額総額1,355百万円の自己株式を取得し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式は11,922百万円となっております。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

・中間連結損益計算書

区分	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)
I 売上高		150,472 100.0
II 売上原価		87,884 58.4
売上総利益		62,587 41.6
III 販売費及び一般管理費		57,864 38.5
営業利益		4,723 3.1
IV 営業外収益		
1. 受取利息及び配当金	633	
2. その他	914	1,548 1.0
V 営業外費用		
1. 支払利息	89	
2. その他	589	678 0.4
経常利益		5,592 3.7
VI 特別利益		
1. 投資有価証券売却益	224	
2. 貸倒引当金戻入益	85	
3. その他	1	311 0.2
VII 特別損失		
1. 減損損失	165	
2. 投資有価証券評価損	141	
3. その他	35	342 0.2
税金等調整前中間純利益		5,561 3.7
法人税、住民税及び事業税	2,238	
法人税等調整額	275	2,513 1.7
少数株主利益		215 0.1
中間純利益		2,832 1.9

## 6. その他の情報

### ・販売の状況

(単位:百万円、%)

	前第2四半期連結 累計期間 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)		当第2四半期連結 累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)		増 減		(参考) 前連結会計年度 (平成20年3月期)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率	金 額	構成比
菓子	41,354	27.5	43,577	27.7	2,223	5.4	86,740	31.1
冷菓	37,423	24.9	39,157	24.9	1,733	4.6	55,469	19.9
牛乳・乳製品等	45,346	30.1	45,995	29.2	648	1.4	83,499	30.0
食品	10,479	7.0	11,822	7.5	1,343	12.8	21,550	7.7
畜産加工品等	15,867	10.5	16,797	10.7	930	5.9	31,425	11.3
合計	150,472	100.0	157,351	100.0	6,879	4.6	278,686	100.0

各事業部門別の状況は下記の通りです。

#### <菓子部門>

国内では、新製品“チーザ”が好評で、“クラッツ”及び「ビスコグループ」等も伸びましたが、“メンタルバランスチョコレートGABA”、“キシミントガム”及び「カプリコグループ」等が苦戦となりました。また、海外では、タイ、上海の海外子会社が引き続き好調に推移しました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は43,577百万円となり、前年同期(41,354百万円)に比べ5.4%の増収となりました。

#### <冷菓部門>

新製品“パリッテ”、主力製品“ジャイアントコーン”、“パピコ”等が順調に売上を伸ばしました。一方、“和ごころ”、“アイスの実”等は減販となりました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は39,157百万円となり、前年同期(37,423百万円)に比べ4.6%の増収となりました。

#### <牛乳・乳製品部門>

新製品“ドロリッチ”が好評で、“マイルドカフェオーレ”等の乳飲料も順調でしたが、清涼飲料やヨーグルト及びプリン関係は前年同期を下回りました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は45,995百万円となり、前年同期(45,346百万円)に比べ1.4%の増収となりました。

#### <食品部門>

主力の“熟カレー”が好調で大きく売上を伸ばし、クリアシリーズ、スナックスープ等も順調でした。一方“HOT菜中華”、ZEPPI Nシリーズ等は苦戦となりました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は11,822百万円となり、前年同期(10,479百万円)に比べ12.8%の増収となりました。

#### <畜産加工品部門>

主力の“パリッと朝食ウィンナー”等のソーセージ関係が好調で、前年同期を上回り、さらに“Aーグル”等の食品原料も順調で、前年同期を上回りました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は16,797百万円となり、前年同期(15,867百万円)に比べ5.9%の増収となりました。